

厳島神社の周囲に栄える戦国時代由来の門前町

重要伝統的建造物群保存地区

廿日市市 宮島町



宮島町の歴史

【 門前町の成り立ち 】

廿日市市宮島町はその島が厳島と呼ばれ、古来より弥山を神体山とした神聖な地として島内への居住はなされず、神官も厳島神社の神事や祭祀の際に渡海したと伝わっています。その厳島神社は推古天皇元年(593)が創建とされ、平安末期に平清盛の庇護を受け大きく発展しました。その後、14世紀以降16世紀頃にかけて宮島が瀬戸内の海上交通の要衝として、また信仰の地として発展が進み、安芸一帯を大内、陶、毛利らが支配した戦国期には厳島神社周辺に門前町が現れ始めたと考えられています。この頃には神社南西側に大聖院、大願寺の門前の町場として先に西町が成立しました。一方、神社北東側では山手に小さな集落が存在する程度でしたが、江戸期に入り、福島、浅野の所領時に有之浦が埋立てられ、水際と平行に弧を描く道が整備され東町が成立していきます。

【 近代の門前町 】

江戸期を通じてこの二つの町は参詣者により活況を呈しましたが、明治期の神仏分離令により社寺の衰退が進み、社寺を中心とする商業都市であった門前町も変化を余儀なくされます。明治中期以降、観光業が発展し、山麓には旅館や別荘が建てられ、土産物として宮島細工を始めとする木工業が盛んとなり、参詣地から近代観光地へと大きく変革していくこととなります。一方、明治9年(1876)広島県が「厳島公園」を定めるとともに、大正12年(1923)には「史蹟及び名勝厳島」に指定されるなど、政策的に歴史的都市の保全整備が図られていき、旧来の町並み景観を大きく崩すことなく、今も『厳島神社の周囲に栄える戦国時代由来の門前町』として歴史的風致をよく伝えています。



甘日市市宮島町伝統的建造物群保存地区の概要

～厳島神社の周囲に栄える戦国時代由来の門前町～

保存地区名称 甘日市市宮島町伝統的建造物群保存地区

保存地区面積 16.8ヘクタール

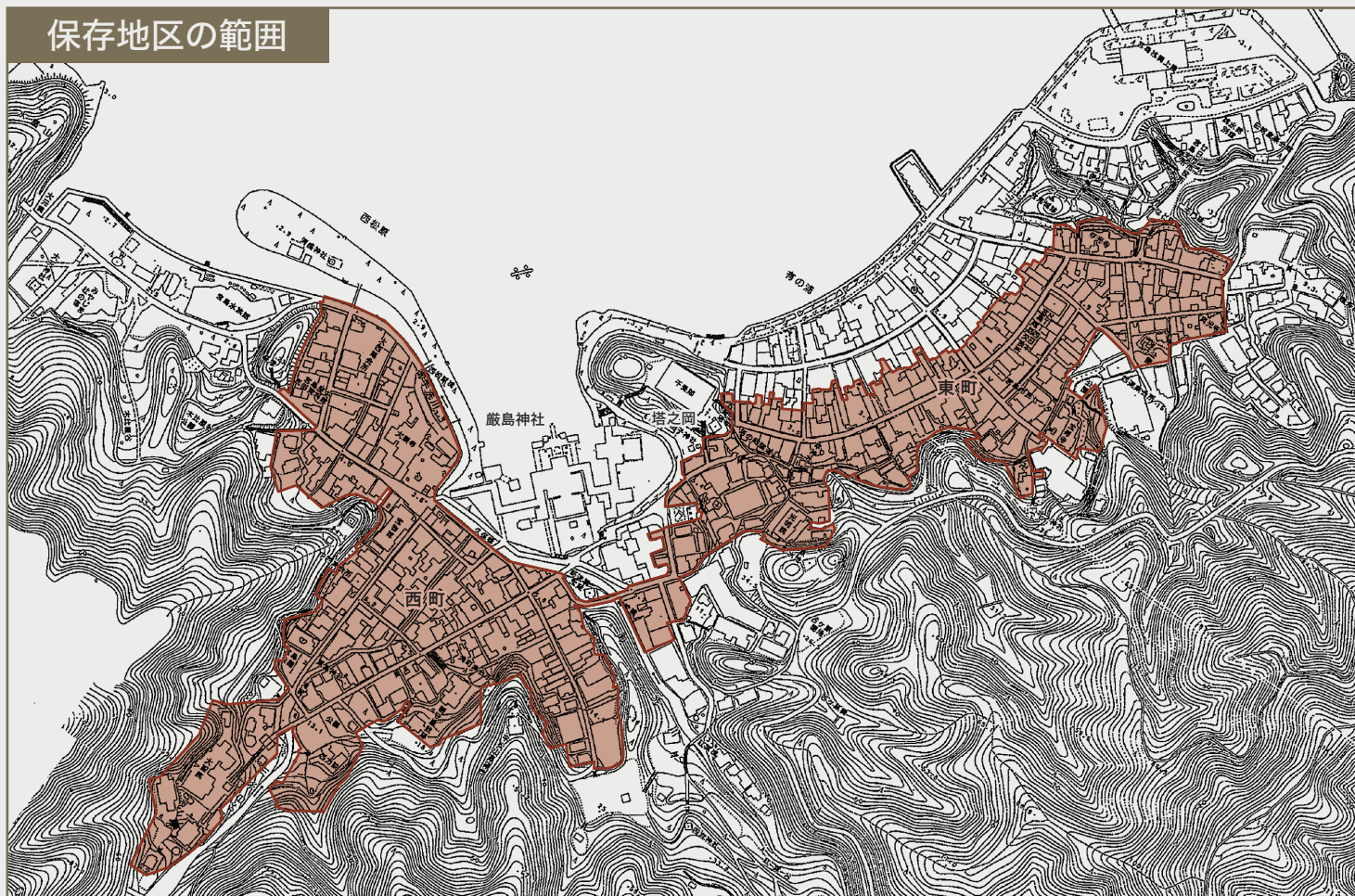
経緯

平成27年 9月28日 甘日市市伝統的建造物群保存地区保存条例 制定
令和元年 6月13日 伝統的建造物群保存地区 決定
令和3年 8月2日 重要伝統的建造物群保存地区 選定

伝統的建造物群保存地区と重要伝統的建造物群保存地区とは

文化財保護法に位置づけられるもので、歴史的な町並み(伝統的建造物群)を文化財として保存するため、市が伝統的建造物群保存地区を決定し、その地区の中から国が我が国にとって特に価値が高い地区を重要伝統的建造物群保存地区に選定します。

保存地区の範囲



伝統行事



宮島町の町並み

宮島町の町並みは西町と東町からなり、その成立過程と性格が異なります。

西町は、厳島神社・大願寺・大聖院などを核として、宗教行為や参詣活動を成り立たせる基盤を持った町として成立しました。

山裾では、石垣の上に寺院や僧坊、上層社家などの広い敷地の屋敷が立地し、有力な内侍はこれらに続いて家屋敷を構え、その他の社家や社官は海岸近くの町家に居を構えていました。

町並みは、通りによって異なった特徴が見られ、滝町・中西町の通り南側では連続する石垣で画された屋敷への石段や法面石積を残す屋敷地が多く残っています。

町場として栄えた通りでは、切妻平入りの伝統的町家が連続し、丘上や海浜の屋敷地では、入母屋造の近代和風住宅が点在する近代住宅地の景観が残されています。



大聖院から伸びる2本の通り



江戸末期建築の屋敷



滝町通り東側の石垣



東町は、戦国期の頃までは、山手に小規模な集落としてある程度でしたが、有之浦の海岸造成と町家通りの本格的整備を契機として、瀬戸内海に開かれた本格的な港町兼門前町として発展していきました。

江戸期には、広島藩による商工業者への手厚い支援や、富くじ・芝居興行などの興行政策もあって参詣者が増加し、歓楽機能を備えた商業町・港町として発展しました。

町並みは、入り江を埋め立てた経緯があることから、主たる通りが浜と平行していると同時に緩やかな弓状をしており、通りの見え方に変化があります。

通りには間口が狭く、切妻平入りの伝統的町家が隙間なく建ち並んでおり、屋根や庇、格子といった伝統的要素が並ぶ景観が残されています。

このように宮島は、宗教機能を集約した社家町としての西町と賑やかな港湾商業町としての東町がお互いに補完しあい、連携した門前町を形成してきました。海と山に挟まれた周囲の環境と一体となって、全体で門前町としての歴史的風致をよく伝えています。



弓状の通りに沿って並ぶ屋並み



江戸中期建築の町家



大正期建築の町家



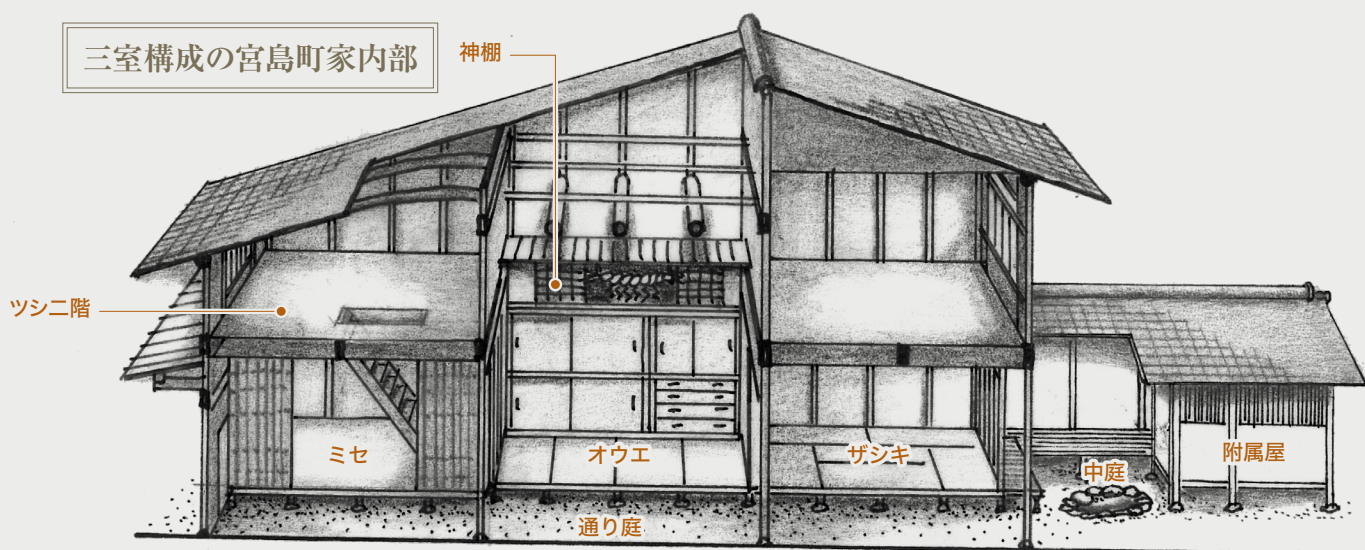
伝統的建造物の特性(町家)

地区内の伝統的建造物である建物は大半が町家で、江戸初期から昭和初期の建築です。その町家は間口が狭く奥行きが深く、通りに面して主屋があり、中庭を挟んで台所・風呂・便所などの附属屋が存在します。そして、廊下で主屋と附属屋をつないでいます。

主屋は木造のツシ二階や総二階が主で平屋も見られます。屋根は勾配が緩やかな棧瓦葺きで、ほとんど切妻平入りとなっています。通りに面した一階は出桁で支える庇を設け、出桁を支える持ち送りは様々なデザインが存在します。

表構えは出格子が多く、二階は手すりや出格子が見られます。

町家の主屋は入り口から中庭まで続く通り庭に沿ってミセ・オウエ・ザシキと呼ばれる部屋が並びます。ミセは元々店舗や仕事場として使用し、オウエは神棚があり、通り庭と一体となった吹き抜け空間で住居の中心となる象徴的な空間となっており、暮らしの中に信仰が息づいている様子がうかがえます。ザシキはもともと日常生活に使われていました。



江戸後期のツシ二階の町家



オウエ



通り庭



オウエ

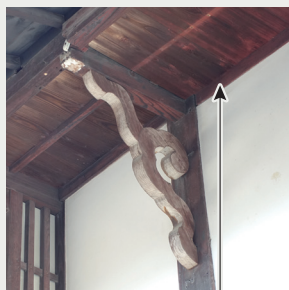
デザイン性豊かな軒裏



肘木



持ち送り



せがい



持ち送り



持ち送り

多様な木製建具



木製玄関扉



大戸(玄関扉)



鹿戸



ガラス窓



出格子(親子格子)



出格子

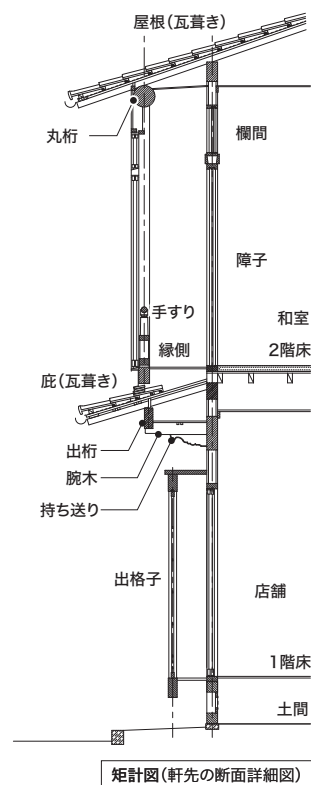
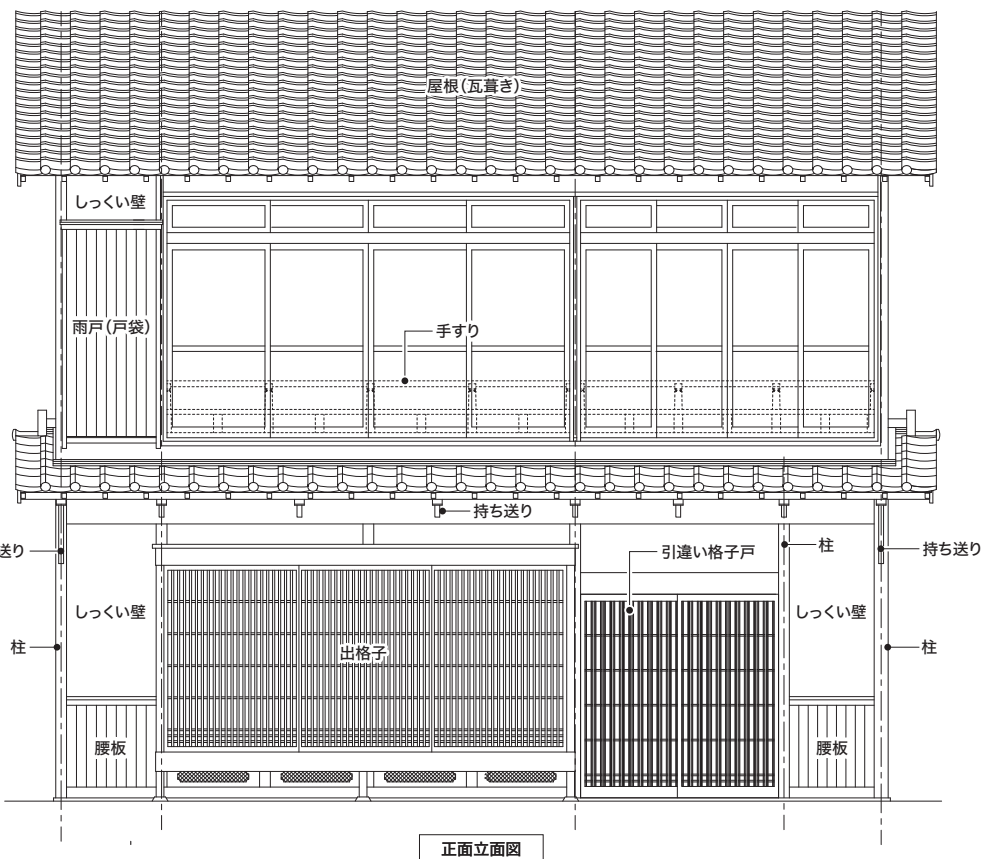


ガラス窓



ガラス窓

現存する宮島町家



重要伝統的建造物群保存地区

今昔写真



西連町【昭和30年頃】



西連町【現在】



大願寺付近【昭和30年頃】



大願寺付近【現在】



中江町付近【昭和40年頃】



中江町付近【現在】



五重塔の下付近【昭和40年頃】



五重塔の下付近【現在】



町家通り【昭和40年頃】



町家通り【現在】

